

ご予約・お問い合わせ専用電話 070-5061-1594

受付時間 8:30~17:00 (土日祝日・年末年始を除く)



病児保育はこちらから

おやべにこにこ園

検索



アレルギーになるとどんな症状がでるの？

皮膚・粘膜症状

- 眼
 - ・充血、眼のまわりのかゆみ
 - ・涙目
- 口腔
 - ・口腔、唇、舌の違和感・はれ
- 皮膚
 - ・かゆみ、じんましん、むくみ
 - ・赤くなる、湿疹



呼吸器症状

くしゃみ、鼻づまり、鼻水、せき、息が苦しい、ゼーゼー・ヒューヒュー(喘鳴)、犬が吠えるような甲高い咳、のどが締め付けられるような感じ



消化器症状

下痢、気持ちが悪い、吐き気、嘔吐、血便



循環器症状

脈が速い・触れにくい・乱れる、唇や爪が青白い(チアノーゼ)、手足が冷たい、血圧低下



神経症状

元気がない、ぐったり、意識もうろう、尿や便を漏らす



全身症状

アナフィラキシー



～大切なのはスキンケア～

食物アレルギーの危険因子として、乳児期のアトピー性皮膚炎が注目されています。皮膚のバリアが弱まり、アレルギーの刺激を受けやすいためと考えられています。

この皮膚炎をコントロールするためにはスキンケアが大切です



やさしく洗って、よく流す

お風呂のあと15分以内に保湿をする



食物アレルギーとは？

特定の食べ物に含まれる「アレルゲン(アレルギーの原因となる物質)」に免疫機能が過剰に反応してしまい、体にさまざまな症状を起こすものです。「免疫」はもともと体に害となるものを排除する働きです。

では、どのような食べ物がアレルギーを引き起こしやすいのでしょうか？

	0歳	1歳	2~3歳	4~6歳	7歳~
1位	鶏卵	鶏卵	魚卵	果物	甲殻類
2位	牛乳	魚卵	鶏卵	鶏卵	果物
3位	小麦	牛乳	ピーナッツ	ピーナッツ	鶏卵&小麦

離乳食は遅らせなくても大丈夫

離乳食が始まったら、卵や乳製品、小麦といったアレルギーになりやすい食物を遅らせるのではなく、推奨されている通りに進めていくことが大切です。

ただし、初めて食べるものは少量から始め、卵はしっかり火が通った卵黄から始めましょう。



当院小児科では、アレルギーの相談や食物負荷試験ができますよ。小児科医や看護師が一緒なので安心です。ぜひ気軽に相談してくださいね。